
ボクの妹にキミがなれ。

成田 縞弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボクの妹にキミがなれ。

【Nコード】

N0397R

【作者名】

成田縞弥

【あらすじ】

母親の再婚であたしに義兄>あにくができた。見た目は超イケメンで、難関大学に通うインテリ。

しかしその本性は、アニメヲタクで妹萌だった!!!

この物語は義兄が掲げる「理想の妹計画」を断固拒否する義妹>いもうと<の物語。

最終どんな義妹になるのか・・・。

初会い&1t・はつあい> ; (前書き)

注1：作者も作中の義妹も、決してヲタクを嫌っている訳ではありません。

注2：作者は妹萌では無いため、読者が萌える保証はありません。

お願い：よければ理想の妹を教えてください！

初会い&1t:はつあい>

片月千里>かたつきちさと<17歳高2。JK>女子高生<真つ盛りの私になんと!新しい義父さん>おとうさん<と義兄ちゃん>おにいちゃん<ができるかもしれません!

今日はその人達と夕食を食べる事になっていて、あたしはちょい緊張気味。

「そんなに緊張すること無いわ。宏正>ひろまさ<さんはとーっても良い人なんだし、誠>まこと<君とは初めて会っただけで宏正さんの子だったらきつといい子のはず。」

「でもさあ、普通迎え』に行くよ』なら分かるけど迎え』をよこすよ』ってどーゆーこと?迎えに行かせるってことだよな?」

「そついう事だろうね。」

「それって、凄いカネもつて事だよねえ?」

「ふふーん、それは会つてのお楽しみ。」

両親が離婚して3年。お母さんは夜のお仕事をしている。いわゆるホステスつてやつ。そこで知り合った男の人、時満>ときみつ<宏正さんと半年ほどお付き合いして今に至る。2人の間では再婚の話が通つてたけど、顔も知らん人といきなり親子つてゆーのはいかなだろつてコトで、今日のこの企画が生まれた。お母さんは驚かせたのか何なのか名前と、あつちにもあたしより年上の息子がいるつて事しか教えてくれない。だからこんなに緊張してるんだけどね。

そして数分後、家のチャイムが鳴った。迎えの到着だ。

「遅くなつて申し訳ありません。お迎えに上がりました。どうぞ、車へ。」

ドアが開くと、いかにも仕事ができそうつて感じの女の人が立つて

いた。このボロアパートにはどう考えても不釣り合い。

「まあ、わざわざすみません。」

お母さんが応えて家を出る。続いてあたしも家を出てびっくり！ボロアパートの前に止まっていたのはかの有名な高級外車ペンツ！少し小さめサイズだったけど、あのペンツだ！やっぱそーとーカネもじやん。ヤッバイ、緊張してきた。

「此方へ。」

さっきの女の人が車のドアを開けてくれた。席が向かい合ってる車なんて初めて見た・・・。

「お邪魔します。」思わず乗り込む時に言ってしまった。いきなり失言したあっ！ハズすぎて顔熱い。でもま、宏正さんたちの前じゃなくて良かった。

車で店へ向かっている時も心拍数がどんどん上がる。どんな人達なんだろうという期待と、自分が何かやらかさないかという不安でいっぱいだった。

「今日は千里の好きな和食だよ。わざわざ合わせてくれたの。優しいでしょ。」

「合わせるって、あたしに！！」

「そうよ。おいしいお店に招待するから娘さんの好きな物は？って。千里の事までちゃんとか気にかけてくれたの。」

たぶん気を使っていただけだと思うけど、それはポイント稼ぎしてるみたいでなんか卑しいなあ...とか思いつつ到着。

招待されたその店もまたびっくり！あの有名な料亭、吉薦>きつちようくだった！なにこれ、何かの間違いじゃないの？！ってかまず謝ろう。ポイント稼ぎとか思ってますみませんでした。

「お待ちしておりました。時満様がお部屋でお待ちです。」

女将的な人が車まで迎えのに来てくれた。案内されるがままに進んで、1つの部屋に辿り着いた。『松の間』、名前からして良い部屋っぽい。

「失礼します。片月様御一行、到着されました。」

「通して差し上げて。」

襖1つ向こうに時満さんたちがいる。しかも異常に声洪い。緊張がピークに達してる、失神しそう……。

「承知いたしました。」

そう言つて女将が襖をスツスーと開ける。

「やあ、よく来てくれた。ありがとう。」

スーツを着た背の高いおじさん。お母さんと同じくらいの年齢で、髪をきちつと整えている。お金持ちのはずなのに気取った感じはせず、懐の広そうなかんじ。

「宏正さん、お礼を言うのは私たちのほうよ。ほらっ。」

お母さんはボーっと宏正さんを見ていたあたしを前へ突き出した。急にやられたので焦つて声が裏返つた。

「あつ、えと、あのー、あつありがとうございます。こんな所わざわざ、えと、あのーで、私は片月由美子>かたつきゆみこ<の、娘で、あのー千里です。17歳です。鷹野田>たかのだ<高校、2年8組9番です。」——シーン——はい、やらかしました。言葉切れ切れだし、あのー連発だし。恥ずかしい、下げた顔上げられない。

「千里ちゃん、鷹野田なんですね。ボクもそこ出身なんですよ。それに、2年の時8組だった。山路>やまじ<先生とか、まだいらつしやる?」

とても優しい声が上から降ってくる。その声が、あたしの緊張を一気に消し去つた。

「はい。とても厳しくて、鬼じ>おにじ<くつて呼ばれています。」

「あつはは、ボクの頃もそう呼ばれてたんです。懐かしいなあ……。」
声の主は宏正さんの息子さん、誠君というより誠さんだった。あたしの勝手な想像で高校生だとばかり思つてた。でもそうじゃない。大人の男の人だった。しかも超イケメンで芸能人みたい。笑顔がまたたまらなくかつこいい!! たぶん宏正さんの遺伝だろうけど、背が高い。冗談だけど、惚れる……。緊張とは違つた方向にドキド

キしてきた。

「誠、初対面なのに名前も名乗らないで！失礼だぞ。」

「申し訳ありません。失礼致しました。ボクは時満宏正の息子で誠、年は19歳です。慶王>けいおう<大学法学部の2期生です。」

えええっ！超インテリじゃん。鷹野田はけっこうな進学校だけど、そのランクに進学する人って学年でも2・3人。多くても5くらい。しかも慶王の法学部ってたしか私立大のトップだったはず。誠さん、あなたに欠点ってあるんですか？

「まあ！すごいね。しかも現役でしょ。はあー、千里もあと2年後ね。」

「そっ、そーだねー。」

度肝抜かれて魂まで抜けそうだ。びっくりするほど棒読みで応えてしまった。

初対面の挨拶はコレまでとなり、とりま席に着いた。料理はコースになっていて、刺身やら煮物やら季節限定の鍋やらが出てきた。食べながらいろいろ話をして分かった事は、宏正さんは有名IT企業、興セラ>きょうせらく<の重役さんで、この会社は重役1人につき秘書を1人持つことができて、さっきあたしらを迎えに来てくれた人がそうらしい。塚本さんっていうんだって。

話も料理も一段落して、宏正さんが真剣な顔で言った。

「じゃあ、1番大事な話に移ろうか。千里ちゃん、私はキミのお母さんの夫として、キミの義父さんとして、相応しいと思うかい？」

遂に来たよー、この質問。今日はこの為に開かれたんだからあたしだって何も考えずただ飲み食いしてた訳じゃない。答えはもちろん――。

「はい。じゃあ宏正さんも私を義娘>むすめ<だと思っていただけるんでしょうか？」

「もちろん！由美子さんから話で聞いていた時から勝手にそう思わせてもらってたよ。」

「そうですか。今後とも、よろしく願います。」

「こちらこそ。」あたしと宏正さんは握手を交わした。

「誠君はどうか？こんな義母さん>おかあさん<はダメかなあ？」

「そんな訳ないじゃありませんか。大歓迎です。」

「よかったあー。私も誠君のこと、義息子>むすこ<だと思ってるからねっ。」

「はい。よろしく願います。」

お母さんと誠さんも握手して、その後誠さんは言った。

「千里ちゃんはこのなんが義兄>あに<で平気？」

「はっ、はい。大丈夫です。」

「良かった！これで千里ちゃんはボクの義妹>いもうと<だっ。」

とっても嬉しそうな顔で握手を求められた。イケメンすぎで、賢い

義兄。こんな義兄を拒否なんてする訳ないじゃんか！！

「はいっ！よろしく願います。」

あたしは笑顔で握手に応じた。こうしてこの会は御開きになった。

初会い&1t:はつあい>: (後書き)

気分を害された方。
すみませんでした。

まあ、嫌ではない方。
ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0397r/>

ボクの妹にキミがなれ。

2011年2月22日00時54分発行